開－２

開発行為届チェックリスト

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| チェック項目 | 開発者 | 土木事務所 | 河川課 | 特記事項 |
| 届出 | 開発行為の規模 |  |  |  |  |
| 開発行為の目的 |  |  |  |
| 土地利用の状況 |  |  |  |
| 雨水流出量の変化 |  |  |  |
| 調整池の計画 | 関連河川　※１ |  |  |  |  |
| 降雨強度式 |  |  |  |
| 計画規模 |  |  |  |
| 流域変更　※２ |  |  |  |
| 流域面積 |  |  |  |
| 流出係数 |  |  |  |
| 洪水到達時間 |  |  |  |
| ネック地点　※３ |  |  |  |
| 許容放流量 |  |  |  |
| 洪水調整容量 |  |  |  |
| 堆砂容量 |  |  |  |
| 非常用洪水吐の設計洪水流量 |  |  |  |
| 調整池の構造 | 洪水調整方式　※４ |  |  |  |  |
| 構造形式　※５ |  |  |  |
| 堤高、堤頂長、堤頂幅等 |  |  |  |
| 安定計算 |  |  |  |
| 放流施設 |  |  |  |
| 非常用洪水吐 |  |  |  |
| その他施設 |  |  |  |
| 添付資料 | 重要開発調整池 計画諸元 |  |  |  |  |
| 計画諸元に関する資料 |  |  |  |
| 事業スケジュール |  |  |  |
| 図面 | 流域図　※６ |  |  |  |  |
| 土地利用平面図　※７ |  |  |  |
| 排水系統図　※８ |  |  |  |
| 調節池横断図　※９ |  |  |  |
| 調節池容量算定図　※10 |  |  |  |
| 構造図　※11 |  |  |  |

＜資料作成にあたっての留意事項＞

※１　ネック地点の検討を行った河川名を全て記載すること。

※２　流域変更を行う場合には、その理由、下流域に対する影響への対策等を記載すること。

※３　ネック地点の検討を行った箇所（以下「検討箇所」という。）の一覧表を作成すること。

　　　一覧表には、各検討箇所の「流下能力」「流域面積」「比流量」等が記載すること。

　　　各検討箇所の詳細が分かる平面図、横断図、写真等が添付すること。

※４　自然放流方式以外を採用している場合には、その理由を記載するとともに、将来にわたって確実に流出抑制効果を発揮できる方式であることを証明する資料を添付すること。

※５　「重要開発調整池に関する技術的基準」に示す構造型式以外を採用している場合には、基準に示す構造型式の洪水調整機能と同等以上の機能を有することを証明する資料を添付すること。

※６　開発地のみでなく、関連河川の流域全てが入るようにすること。

　　　河川は、一級河川（直轄区間、府管理区間）、二級河川、準用河川、普通河川、都市下水路が区別出来るようにすること。

※７　調整池毎の流域界がわかるようにすること。

　　　開発地、調整池、背後流域がわかるように色分けすること。

※８　調整池までの流入経路、開発地から府管理河川までの流入経路がわかるようにすること。

※９　「N.W.L.」「H.W.L.」「H.H.W.L.」「オリフィス敷高」「非常用洪水吐敷高」「現況地盤線」を記載すること。

※10　水位毎の池面積がわかるようにすることとし、面積計算根拠を添付すること。

※11　オリフィス、非常用洪水吐等の排水構造物に現況地盤線を記載すること。